



## QRコード⑥【道しるべ⑥⇒道しるべ⑦ 250歩】

寄藻川(よりもがわ)の川沿いを真っ直ぐ南へ。

250歩で道しるべ⑦(ここから右の小道へ)。宇佐神宮東口まで約2.6km

### 俳人「山頭火」も、よりも橋を渡った…。 山頭火の俳句うち、普通ん俳句とちごちよる。おもしろなあ！



#### 寄藻川(よりもがわ)

寄藻橋が架かる寄藻川の上流に宇佐神宮がある。寄藻川は宇佐神宮の境内を横切り、さらにその上流は御許山方面へ向かう。下流は向野川と合流して周防灘に出る。昔の人は陸路だけではなく、船でも宇佐神宮に行ったかもしれない。和氣清麻呂は船で北馬城の「和氣(わき)」地区にある「船つなぎ石」に船を繋いだという。そこから歩いて宇佐神宮に行ったのか、いや船で寄藻川を上ったのかもしれない。どちらだったのだろう。



#### 俳人「山頭火」と寄藻橋

寄藻川に架かる寄藻橋は旧国道にとって重要な橋だった。宇佐神宮から杵築・別府・大分方面へ行くにも、この橋を必ず通った。自由律俳句で有名な俳人「山頭火」も昭和4年と13年二度宇佐神宮を訪れている。4年には国東半島方面へ、13年には別府方面へ。当時は歩いての旅、この橋を渡し、旅する山頭火が想像できる。



山頭火の作品で「分け入っても分け入っても青い山」が一番有名でしょうか。宇佐神宮では、次の二句が詠まれています「松から朝日が赤い大鳥居」「春霜にあとつけ詣でる」。現在、宇佐神宮境内の歌碑に朱色で刻まれている。

#### クイズ6

寄藻橋の近くに「橋津片倉製糸工場」があった。

昭和30年代まで北馬城地区はこの会社で発展した。

地域には蚕の餌となる桑畑も多かった。

工場ではどのような繊維が作られていたか。

解答は道しるべ⑦のQRコード

#### ●クイズ5の解答(豊後高田市)

「2021年度 移住したい町ランキング」が月刊「田舎暮らしの本」(宝島社)で発表された。10万人以下の町では大分県豊後高田市が4部門すべてに一位。ダントツ日本一に輝いた。移住・定住支援が充実していること、都市機能がコンパクトな地域に集中しながら、泉質の異なる6つの温泉や自然も身近にあること、地域の人と移住者の交流が盛んなことなどが評価ポイントになった。

北馬城地区は豊後高田市から4kmの自然豊かな田舎町だが、日豊本線「宇佐駅」、「国道10号線」、「総合病院」、「学校」、「スーパー」・「レストラン」・「カフェ」、コンビニ、「郵便局」、「動物病院」等を有す町だ。近々「道の駅」も誕生する。今のところ、水害や地震もほぼ無く、かなり安全・安心な地域と感じている。

北馬城への移住はいかがでしょうか。空き家もたくさんあります。北馬城地区は移住先としては、大きな穴場と思うのですが。